会長からのメッセージ

「品質の仲間」づくりに向かって

（株）デンソー
若林　宏之

日本品質管理学会員の皆様こんにちは．日本品質管理学会の第53年度会長を拝命しました若林宏之です．どうぞよろしくお願いします．

私はコロナ禍の蔓延する第50年度は二橋会長のもとで，第51年度そしてコロナ第5類移行の第52年度は永田会長のもとで3年間本学会の副会長を拝命しておりました．

この3年間の活動は第50年度からの3ヶ年中期計画に基づく各年度計画として実行されましたが，コロナの蔓延は予定外で第50年度の記念行事は中止となり，研究発表会，講演会などの各種行事も対面を避けてオンライン中心となりました．ただ，これは悪いことばかりではなく，以後オンラインや対面とオンラインのハイブリッドなどむしろ会員の利便性向上に効果がありました．

一方現在の会員状況についてですが，賛助会員は皆様のご努力もあって微増していますが正会員の減少には歯止めがかかっていません．私は3年間副会長として「品質の仲間」づくりということを申し上げてきました．「品質」誌の副会長巻頭言でも毎年同じことを言ってきました．今年度も引き続き会長としてこの言葉を掲げていきたいと思います．

第53年度である今年度の活動内容も次の3ヶ年中期計画を議論したうえで策定し，その中身を昨年11月11日の第53回年次大会で報告しました．

これは，先の3ヶ年中期計画の中で策定された日本品質管理学会のミッション「あらゆるQuality（質）向上に役立つ技術・手法を研究・開発しその成果をすべての分野に普及させる」とビジョン「Qの確保，Qの展開，Qの創造を通して我が国の生産性・国際競争力を再び世界トップに押し上げるとともにその成果をもって国際社会の発展に貢献する」をしっかりと継承したうえで，3つの活動の柱であるA. 会員・賛助会員にとって魅力ある学会づくり，B. 品質管理の正しい理解と普及促進による，安心で豊かな社会の実現への貢献，C. 更なる会員サービスの向上を重点実施事項としています．その中で活動の柱A. に関しては，今年度の新たな取り組みとしてAI品質のガバナンス強化，モノづくりにおける工程内ビッグデータを用いた品質管理を取り上げ，それぞれ企業内での開発・活用時のガイドラインの明確化，解析ツール提供やそれらを用いた改善事例の共有を目指します．また活動の柱Bについては活動の柱Aとも関係しますが，AI，ビッグデータ活用へ繋がる小・中・高への品質・統計教育支援を新たに掲げて，これまでの問題解決の教育支援にデータ駆動型問題解決支援を加えて教員の本学会への入会促進も図っていきたいと思います．

昨年には自らの活動の質，自組織のマネジメントの質を正視しそれらの質を琢磨することを目指して品質関連5団体による日本クオリティ協議会JAQが発足しましたが，本年度はこのJAQの活動を通じても「品質の仲間」づくりを加速していきたいと考えます．また活動の柱Bの中で国際化の推進としてANQ（Asian Network for Quality）総会への積極的参加を掲げており，2024年日本開催ANQ総会を成功に導きアジア・日本のQualityをアピールしたいと考えます．

活動の柱Cは更なる会員サービスの向上ですが，事務業務の効率化に加えて活動の柱A，Bの取り組みを積極的に発信することで本学会員であることの魅力を感じて頂けるようにしていきたいと思います．

以上の本学会の施策のもとで幅広い分野の方々に「品質の仲間」になっていただけるよう現会員の皆様の積極的なご参画をよろしくお願いします．

前会長からのメッセージ

これからの学会活動に期待

早稲田大学 創造理工学部 経営システム工学科 教授
永田　　靖

早稲田大学の永田です．2023年11月11日の総会をもちまして日本品質管理学会会長の2年間の任期を終了しました．理事や代議員の皆様，事務局の方々の努力により，学会活動を盛り上げていただきました．心より感謝いたします．

本年8月末に学会のニュース配信サイトが攻撃を受け，皆様のもとへ不審メールが届くという事態が発生しました．すぐに発生原因と攻撃範囲を特定し対応いたしました．1900件余りのメールアドレスが漏洩した可能性のあることがわかりました．その後の調査から，メールアドレス以外の情報を格納している別サイトへの侵入はないことを確認しました．今後，再発防止・未然防止に努めてまいります．皆様にはご迷惑とご心配をおかけしました．深くお詫び申し上げます．

この一年の学会活動を振り返らせていただきます．

今年の2月にJSQC規格テクニカルレポート「品質不正防止」を発行しました．多くの品質不正事例の報告書を読み込み，その特徴や組織の在り方をまとめた労作です．講習会を開催したところ，大変多くの方々にご参加いただきました．部分的にではありますが，日本品質管理学会の使命を果たすことができたと考えています．本冊子は2023年度の日経品質管理文献賞を受賞しました．

第44年度会長の大久保尚武氏が提唱された日本クオリティ協議会（Japan Association for Quality；JAQ）が2023年4月に設立されました．当面のあいだ，代表役員には日本品質管理学会会長が就任します．日本の品質管理活動に関わる様々な問題・課題を整理して，方向付けをしていければと考えています．

コロナ禍のもと，ずっとオンラインだった研究発表会を対面で再開できました．研究発表会の際の情報交換会も対面で実施しました．対面により議論が活発になり，臨場感がアップすることを再認識しました．一方，講習会や講演会の多くはオンラインで開催し，早めにスケジュールをお知らせした結果，遠方の方々にも多くご参加いただきました．対面とオンラインをうまく使い分けて行事を遂行していくという戦略は功を奏したと考えています．

正会員数を増加させるという目標は達成できていませんが，賛助会員会社数は微増となっています．賛助会員向けに特別講演会を開催したり，講演会の大口参加券を配布したりしました．賛助会員のメリットを議論してきた結果です．日本品質管理学会を一緒に盛り上げてくださる企業を是非広く紹介したいという思いから，学会のホームページにおいて賛助会員会社の一覧をすぐに閲覧できるようにしました．

一昨年，Asian Network for Qualityの議長に選出された慶應義塾大学の山田秀教授の努力により，2023年10月にANQのCongressがベトナムのホーチミンで4年ぶりに対面で開催されました．2024年は，慶應義塾大学でCongressが開催される予定です．その準備をすでに始めています．

次期会長の若林宏之氏（元デンソー副社長）には副会長を3年間にわたりご経験いただきました．これは異例ですが，その分，学会の弱点や伸びしろをよりご理解いただいています．安心してバトンを渡してエールを送りたいと存じます．

学会は共通の目標を持って仲間が集う場です．本学会の共通の目標は，品質管理活動をあらゆる面から支え，高める方法を開発・応用することです．これからも，それに向かって活き活きとした活動が日本品質管理学会で展開されることを期待しています．